

令和元年度第1回東近江圏域地域医療構想調整会議 議事録

日 時：令和元年7月11日（木）14：00～15：30

場 所：ショッピングプラザアピア4階 研修室AB

出席委員：水原委員、島田委員、小川委員、藤居委員、小島委員、日永委員、宮下委員、五月女委員、由利委員、井上委員、竹内委員（代理 辻井氏）、山口委員、小山委員、有吉委員、鈴木委員、間嶋委員、仲委員、袴田委員、後藤委員、前田委員、寺下委員、小椋委員、瀬戸委員、園田委員、夏原委員、山田委員、奥委員、寺尾委員

事務局：近江八幡市 長寿福祉課 谷口副主幹

東近江市 総合福祉支援課 山川課長補佐

日野町 長寿福祉課 坂田主任

竜王町 福祉課 木下課長補佐

東近江保健所 城野次長、武田副参事、小林副参事、田中主幹、清水主査、久保主査

1. 開会

2. あいさつ

3. 議事

(1) 滋賀県における地域医療構想調整会議について

【資料1】【資料1-2】「参考資料2」により事務局から説明
質問、意見なし

(2) 令和元年度全体スケジュールについて

【資料2】により事務局から説明
質問、意見なし

(3) 平成30年度病床機能報告の分析について

【資料3-1】【3-2】【参考資料】により事務局から説明
質問、意見なし

(4) 療養病床の実態調査について

【資料4】により事務局から説明
質問、意見なし

(5) 令和2年度地域医療介護総合確保基金(医療分)事業提案について

【資料5】により事務局から説明

【資料5-2】により、各機関から説明

(委員) ヴォーリズは2年とあるが、年跨げるのか。

(事務局) 2年契約で半分ずつで予算要求していく。

(委員) 規模としてみるのか。国の事業は要求を出すと単年度で終わるように言われるが、2年間かかっても大きなものは予算がつくと考えていいのか。

(事務局) 原則は基金は単年度だが、病院の新築という規模の大きな事業であり、地域医療構想の理念である回復期の増床に合致しておりであるので、やむを得ない。

(委員) 竜王町に質問。退院後のリハビリテーション体制の強化は、医療保険を使ったリハビリを想定しているか？介護保険、あるいはボランティアいずれか。

(委員) 医療もあるが、予防リハ、生活機能リハ、スポーツ障害なども含めて、リハビリを行っていかれたらと思っている。

(事務局) 7つの提案について、ご意見をいただき、反対意見がございませんでしたので、県庁に東近江圏域の基金の提案としてあげさせていただく。

(6) 令和元年度「東近江圏域医療福祉ビジョン」(住民啓発)の取り組みについて

【資料6】により事務局から説明

【資料6】により、次の機関から報告

<目標2について>

(委員) 東近江薬剤師会と一緒に。県の薬剤師会の事業で「まかせてよもっとみじかに薬剤師」という事業がある。月単位でテーマを決めて例えば、糖尿病患者に歯周病の説明や検診をすすめるといったことをしている。8月～1月まで実施。

(委員) 住民啓発は広報誌で行っている。医療機能分担については、法人3病院の機能を広報誌で紹介している。かかりつけ医を持ちましょうということについては、地元の開業医さんの一覧を窓口に置いている。日野記念病院では講演会も行っているため病院の機能や紹介をしていきたい。

<目標3について>

(委員) 在宅看取りの推進のため在宅訪問診療医の連携を図る。10年弱まえから訪問診療医が輪番制の在宅看取りの取組をしてきたが、2、3例あっただけで立ち消え、一昨年自然消滅した。今年度有料で10人弱の医師のグループをつくって、都合の悪い日に看取りが起きそうな事例を事前登録し、基本料金を設けて、

誰かが代わりに行くというシステムを動かそうとしている。現在月1回勉強会を開いている。

(委員) 認知症疾患医療センターを拝命しているので各団体から講演会などの依頼がある。老人会からも依頼がある。どうやって元気で長生きしたらいいのか、死生観などもわかりやすく説明したりする。認知症の予防も。認知症看護認定看護師が1名いるので、各企業や湖東図書館に話をしに行っている。福祉関係の方や市町に啓発活動に行っている。

<目標4について>

(委員) 市民公開講座を院内で年2回、滋賀医大と近江八幡医療センター3病院でがんの公開講座を年1回実施。10月27日にはきらめきホールでがんを知ろうという講演会を行う。8月にはACPの内容も入れたものをする。

あと、目標2について、現在かかりつけ医をもたないかたが非常に多く、毎日500人を超える外来患者が来られる。びわこあさがおネットを普及して連絡の1つのツールとして電子カルテの普及とあわせて、登録を進めるキャンペーンをする予定。

(委員) 3年前に命のバトンの啓発DVDを作成して活用いただいている。今年度は在宅看取りの市民啓発DVDを作成したいと考えている。在宅医療だけでなく様々な場での看取りについても啓発していきたい。

<目標5について>

(委員) 歯科医師会として本格的に訪問診療を開始したH27年より、2か月に1回 歯科衛生士の研修を行っている。保健センターで健診をしている衛生士や在宅の衛生士に声をかけて実施している。離職している方には、これを機に復職してもらったり、訪問診療のみパートでもらえたらと考えている。県内から参加者が来られるが、東近江圏域の参加者が少ない。年に1~2回在宅研修会もしている。

(委員) 今年で4年目になるが、夏休みに子供たちを対象に病院探検ツアーをしている。心臓血管外科医が豚の心臓を手術して子供たちに見せ、触らせるということをしている。この事業は、次世代の育成をめざしていて、即効性はないが、小学5年から高校生までも対象にしているので、医者や看護師等にあこがれてなろうという子が出てくるといいなと考えている。25名を対象に5時間程度おこなう。また、7月20日に、職員の子供を対象にキッズ探検隊をしている。リハを見せたり、救急車に乗せたり、手術を見せたりしている。親の職場を見せるのが目的。急性期病院で激務をして帰ってきた親を子供が尊敬のまなざしで見、それでまた職場が活性化することを狙っている。

(委員) 八幡総合の取組素晴らしい。昨年の12月4日に成育基本法が施行され、小児科医としてもがんばらないといけないと思っている。いつからされていますか。

(委員) 外部に対しては、長浜の病院でも市民公開講座の形でされているが、当院では心臓血管4年前から実施。院内のキッズ探検隊は、滋賀県看護協会でワークライフバランスの事業として数年前から実施している。院長、副院長、看護部長以下トップもみんな参加して実施している。

(7) その他

(事務局) その他の議題は特にありません。

(委員) 県に伺いたい。地域医療介護総合確保基金について、次年度のおおまかな額が出たと思うが、大よそいくらで出ておりましたでしょうか。国と地方を合わせて1,030億円くらいだったと思うが。以前から100分の1県といわれているが、滋賀県はそれだけ獲得していないと思う。県としても尽力いただきたい。

(事務局) 一昨年の本協議会でもご質問があったが、施設設備系の基金の額が少なかった。ヴォーリズさんの増床の件で昨年度までは3億円くらいだったが、4億あまりとなり、設備系については増額した。

(委員) 資料3-2の表紙のところですが、病院のベッド数が2025年の推計値で1,832床となり現在から400床近く減る推計となるが、これはかなり現実味をおびた数字でこの目標に向かって進めていくという解釈でよいか。

(事務局) 地域医療構想の推計は2015年のデータをベースに計算で出した推計。その段階での推計値。また事情が変わってくる。必要病床数という考え方であり、絶対そうしないといけないということではないと理解している。

(委員) 入院できない人が在宅に戻る人が多くなると思う。我々はおかかりつけ医の団体なので、5年10年先に向けてどういう体制が必要か参考にしたい。

(委員) 病床機能報告でいただいている数字と、2025年のシミュレーションで出している数値がそのまま比較できるものではないので、あくまで目安と考えていただきたい。数が減っているように見えているのは、その部分は在宅であるとか入院期間を短くするといったことがあるので、大きな方向性であることはまちがいないが、数字についてはそのまま比較できるものではないことをご理解いただきたい。

資料6では各団体で工夫いただいていると感じている。保健所の取り組みの欄がないが、何もやっていない訳ではない。昨年度から各機関がこういったことを一生懸命やって、ホームページ等では出しているが、地域の住民さんにどこまで届いているのかなと思っている。より浸透するようにしていかないとはいけ

ないと思っている。保健所には、住民から、病院に早く退院するようにいわれて困っているという声も寄せられる。その都度説明はさせていただいているが、以前に比べると啓発は進んでいると思うが、機関どうしの連携も深めた中で、より効果的な啓発など取り組みを進められるとよいと感じている。日野記念病院さんが日野町と共同しておられるように他の病院も行政の行事等と一緒に進めていただいていると思うが、さらに情報を共有していただいて、協働いただけるところがあるか検討いただきたい。

(事務局) 次回(第2回)は、10月頃を予定。

4 閉会